図書日和

２０２１年１０月号
鹿児島中央高等学校図書館
令和３年１０月２７日発行

秋も深まり，文化や芸術に触れる機会も多い季節となりました。今日から１１月９日までは読書週間です。高校生の読書離れが叫ばれて久しいですが，皆さんの読書離れは加速していませんか。図書館や文化祭展示コーナーでは，パネルなどを使ってたくさんの図書を紹介しますので，読書に親しみましょう。

なぜ大阪の中年女性は歩くのが速いのか？

地歴公民科　髙山　正教　先生

三綱領のひとつ「自主独立」を謳う福沢諭吉の**『学問のすすめ』**は，明治維新直後の時代に 300 万冊以上が読まれたという大ベストセラーであった。当時の人口から考えても，その売れっぷりは凄まじい。この『学問のすすめ』では次のような一節がある。「…さらに進んで学ばねばならないことはたくさんある。地理学というのは，日本国中はもちろん，世界中の国ぐにの気候や土地柄を知り交通方法を知らせる学問である。」福沢諭吉曰く，地理学は進んで学ばねばならないことの一つであるらしい。地理に関わる者として少し嬉しい。

図書館にある**『自然のしくみがわかる地理学入門』**という本では「なぜ新宿に高層ビルが集まっているのか？」，「なぜ大阪駅は階段やスロープが多いのか？」，「富士山がなぜそこにあるのか？」といったような疑問を解決していく形で，自然に関する地理学の内容が紹介されていく。また，**『人間の営みがわかる地理学入門』**という本では「コーヒー豆を生産しているアフリカの人が，なぜインスタントコーヒーしか飲めないのか？」，「なぜ日本の伝統料理には味噌，醤油，豆腐，納豆など大豆を使ったものが多いのか？」などの疑問を地理学的観点から迫っている。そもそも地理学者は，上述したような独特な観点からの疑問を持つ。普段，暮らしている中で高層ビルが集まる理由なんてものに興味は湧かない。今まで私が出会った地理学者は，変わった感性の人が多い。どんな世界の見え方をしているのだろうと思ったことがある。

また**『文化地理学ガイダンス』**という本では，ある面白い研究事例が紹介されていた。それは，「ある学生が大阪の地元に帰ったある日，何気なく歩いていたら中年女性に足早に抜かされ，驚いた」そうだ。そこから，大阪市，京都市，四日市市，津市の駅付近の歩測 30 歩ほどの距離をストップウォッチで測定し，大阪の中年女性が最も速く歩くという結果が得られた。「なぜ大阪の中年女性は歩くのが速いのか？」要因を考えながら観察を進めていくと，大阪の中年女性は，スニーカーやランニングシューズを履いている割合が高いことや，日傘を差している割合が低いことが分かったそうだ。なぜ靴は機能性重視なのか？晴れているのに日傘は差さないのか？謎は深まる。

地理学は「暗記ばかりでつまらない勉強」というイメージがある。地域の農産物や特産品を覚える暗記のための勉強と思われがちだ。しかし，毎日の生活を考えてみると，朝起きてテレビをつけ，気象情報を見る。それは，気象学という自然地理学の一分野であるし，ニュースから流れてくる世界の紛争や環境問題，次に行こうとする旅行先の情報も言わば地理学の対象である。地理学が対象とする世界はあまりにも身近なものであるために，ほとんど気づかれない。地理学が地球の表面にかかわることを研究の対象とする「地表面」の学問だからである（『文化地理学ガイダンス』より）。

さて，地理へのイメージが少しは変わってもらえただろうか？地理は，ものの見方や考え方の一つだと私は思っている。地理的な考え方は切れ味するどい視点になり得るため，その説得力は時に力強い。地理学の範疇とする対象の広さからも，まさに SDGs にはもってこいの学問だ。その手掛かりとして，まずは身近なことに疑問をもってほしい。そしてその疑問に地理（チリ）のソースを加えて，味わってみてほしい。きっといつもとは違う味わいになるはずである。

①『学問のすすめ』福沢諭吉著　②『自然のしくみがわかる地理学入門』水野 一晴著
③『人間の営みがわかる地理学入門』水野 一晴著　④『文化地理学ガイダンス』中川 正他著

＊① ② ③ は，所蔵，　④ は，11 月の新着書です。

今日から読書週間です！ 11月9日(火)まで

読書標語　“ 最後の頁を閉じた　違う私がいた ”

読書週間中には，図書館や文化祭展示コーナーで読書週間ポスター展を行っています！

図書委員会からお知らせ

①図書館内展示「読書の秋ですよ～　図書委員会からのおすすめ本」

この秋に，図書委員から皆さんに読んでほしい図書を展示しました。これまでよく借りられている人気の図書もたくさんあります。皆さん，ぜひ読んでください。

②文化祭展示　11/1（月）～11/5（金）

場所：教室棟１階　廊下（地学実験室と脱靴場の間）
内容：「映画やドラマで見た作品を読んで見よう！」
「75 枚の読書週間ポスターで，その時代を感じよう！」
「2020 キミ本（君に贈る本）大賞　『困難を乗り越える』」

*キミ本大賞は，全国の中学・高校の先生が生徒に読んでほしいと投票した本の上位１０冊です。2021 年度は現在募集中です。

文芸誌『火山地帯』７冊を展示

図書館に寄贈していただいた『火山地帯』181，198 199，200，202，203，204 号には，山口悟教頭先生の作品が掲載されています。
カウンターに展示しており，たくさんの生徒や先生方が手に取っています。みんなで読んでみましょう。

『図説　日本の町並み　全 12 巻』の寄贈がありました！

本校５期生で高校教諭をされていた後野利行先生から，12 冊の図書の寄贈がありました。
いただいた図書は，図書館蔵書として大切に保管しますので，生徒の皆さんや先生方の読書や学習に役立てていきましょう。

１０月の新着書

No.	分類	書　　名	著　者 名／出 版 社
1	0199	何のために本を読むのか	齋藤孝／青春出版社
2	3821	日本のしきたり英語表現事典	亀田尚己／丸善出版
3	913	ハリネズミは月を見上げる	あさのあつこ／新潮社
4	3761	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー　２	ブレディみかこ／新潮社
5	4899	人生で大事なことはみんなゴリラから教わった	山際寿一／家の光協会
6	4913	空気を読む脳	中野信子／講談社
7	6011	人も街も動かす!巻き込み力	水野孝一／KADOKAWA
8	1597	相手の身になる練習	鎌田實／小学館
9	913	さよならも言えないうちに　（「コーヒーが冷めないうちに」シリーズ）	川口　俊和／小峰書店
10	019	未来のきみを変える読書術	苫野　一徳／筑摩書房
11	3704	10 代からの批判的思考	名嶋義直／明石書店
12	3614	みんなに好かれなくていい	和田秀樹／小学館
13	913	貝に続く場所にて＜芥川賞受賞作＞	石沢麻依／講談社
14	913	彼岸花が咲く島　＜芥川賞受賞作＞	李琴峰／文藝春秋
15	726	モチモチの木　英語版　The Booyoo Tree	斎藤隆介 文 滝平二郎 絵　アーサー・ビナード英訳／岩崎書店
16	913	赤毛証明	光丘真理／くもん出版
17	913	線は、僕を描く	砥上裕將／講談社

『鐘を鳴らす子供たち』古内一絵著／小峰書店

敗戦後の混乱期。突然，ラジオドラマに出演することになった子供たちと，自分たちが起こした戦争への後悔に苛まれた大人たちが，力を合わせ生きていく姿を描く。「鐘の鳴る丘」をモチーフとした物語。

『泣いたあとは、新しい靴をはこう。』 日本ペンクラブ／ポプラ社

親友を裏切ってしまったけど，どうしたらいいですか？ 校則って理不尽じゃないですか？ 自分のこと，人間関係，将来…。10 代の悩みに，森絵都，冲方丁，俵万智ら 44 名の作家が本気で答える。

ＳＳＨ推進室から 25 冊の図書が届きました！

今月届いた図書は，ＳＤＧｓや情報モラル，生物，動物学等，探究学習に活用できるような内容の図書２５冊です。次号の図書日和で図書を紹介します。

今月号では，地歴公民科の髙山先生が地理学に関連した図書等から，さまざまなことへの興味や感心が拡がる内容の紹介をしてくださいました。４冊の図書はカウンターに展示しますので，手に取ってみましょう。
今年度の文化祭は，廊下の一部を利用した展示となりました。教室から近い場所ですので，展示期間中は，足を運び，たくさんの図書との出会いを楽しんでください。